

第四回 荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：真紅

【日時】

10月11日（火）19：30～21：30

【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿と課題を話し合う

ステップ4：その他

ステップ1：はじめに

今回から他グループから移動した委員を紹介した。

【前回の話し合いの内容確認】

コンサルタントにより、前回の話し合いの内容確認がなされた。

ステップ2：こうなって欲しいまちの姿と課題を発表しよう

【資料配布「これまでの意見のまとめ」の確認】

配布資料「これまでの議論のまとめ（真紅）：第4回懇談会資料」についての内容確認がされた。

（分類について）

- ・ 分類について、あまりくくりが多いと議論しにくいと思う。まとめられるところはまとめた方が良い。
- ・ 「アイデンティティ・都市ブランド」と「再開発・観光開発」を1つのカテゴリーに統一させた方が収まりは良い。
- ・ 「都市基盤・ハード」に分類されている“・都心至近のベッドタウン”は「立地ポテンシャル」に分類した方が良い。
- ・ 「都市基盤・ハード」に分類されている“・自転車用のインフラの整備”は「自転車」に分類したほうが良い。
- ・ 「道路」と「自転車」は場合によっては「都市基盤・ハード」と統一しても良いと思う。
- ・ 「子育てしやすいまち」を「市民参加・コミュニティ」と統一させることも考えられる。
- ・ 「コミュニティ」は様々な分野にリンクしているので「子育てしやすいまち」のみと統一させるのはどうか。

（その他）

- ・ 「子育てしやすいまち」について、子供がいない人にはよく解らず意見が出にくいのでしっかりと議論されていない。
- ・ 「子育てしやすいまち」については真紅では取り上げずに他の分野での議論を深めてはどうか。

【中間発表の内容について】

11月の中間発表の内容、それに向けた意見のまとめ方などについて議論した。

- ・ 広く浅く議論をするか、どれか1つの分野を深く議論していくか。
- ・ 「コミュニティ」と「住んでみたいまち」が多いのでこれを柱にして議論すれば良いのでは。
- ・ 分野を「ハード」と「ソフト」に分けて発表してみてもどうか。
- ・ 「ハード」と「ソフト」共有している部分もあるので、3つに分けてみるかどうか。
- ・ 今すぐ分類をまとめるのではなく、議論を進める中でまとめていけば良いのではないか。

【こうなって欲しいまちの姿と課題について】

（「住んでみたいまち」について）

- ・ 「住んでみたいまち」は年代によって子供がいる家庭が求めるもの、高齢者が求めるものなどそれぞれ求めるものが違う。
- ・ 全世代ではなくこのメンバーの（世代の）視点から見た「住んでみたいまち」について議論すれば良いのではないか。そのためのグループの分類だと思う。平均的ではなく偏ってもいいと思う。
- ・ 実感としての「住んでみたいまち」を議論してみてもどうか。
- ・ 「住んでみたいまち」には「再開発・観光開発」など、全ての分野が網羅されている。

（「再開発」について）

- ・ 再開発にあたり「行ってみたい」ゾーンと「住んでみたい」ゾーンにエリア分けすべきではないか。
- ・ 「再開発」には「都市基盤・ハード」、「アイデンティティ・都市ブランド」も含まれる。加えて「福祉・介護」も含まれるのではないか（バリアフリー化の為にインフラ整備や、再開発地区でのバリアフリーマンション建設など）。
- ・ 「観光」と「下町」、「観光」と「居住」の区別をつける（メリハリをつける）。
- ・ 再開発にあたり、住人のニーズも踏まえて計画、開発する必要がある。
- ・ 20年～30年後というように長期的視点で荒川区の住人をイメージし再開発をする。
- ・ 再開発の難しいところは、ディベロッパー（企業）が勝手に開発してしまうことである。行政で条例を制定するなど規制すべきである。
- ・ 何のための、誰のための再開発か。区としてのスタンス（意見）をきちんと持つべきである。
- ・ 再開発ではなく、今あるものを活かすという発想はないのか。
- ・ 再開発は避けて通れない。再開発にあたり、無法地帯にならないよう区で規制すべきである。

（「コミュニティ」について）

- ・ 再開発をするのみでなく、その後のコミュニティを形成する努力も重要である。
- ・ 新しい住人は参加するという意識が低いためコミュニティの形成が難しい面がある。
- ・ いつ、どこで集まっているのかというコミュニティの情報が少ない。
- ・ 災害時の避難の際コミュニティは非常に大事になる。今の状況に対して危機感を感じている（災害時の避難場所がわからないなど）。一方、防災意識が高まっているなど、今がコミュニティを形成するチャンスだと思う。
- ・ コミュニティは住民主体のものだが行政も住民のコミュニティ運営に関わって欲しい。
- ・ 情報発信について、回覧版では回ってこない家もあるので、ポストに配布したらどうか。
- ・ 自治会・町会の新規勧誘がないので、抜けたら新しい人が入ってこない。そのため先細りの状況である。
- ・ 住民にコミュニティの情報が入り、その上で新規勧誘をすればもっと人が参加するのではないか。積極的に情報を発信しコミュニティを活性化すべきである。
- ・ 自治会は自治だけに住民主体のものだが、災害時などでコミュニティの大切さが言われているので区も自治体との関わりを考えてほしい。
- ・ 催しなどの情報だけでなく、自治会に入るメリットを伝えれば、今まで興味のない人や会費を払おうとしなかった人も参加するのではないかな。
- ・ 新たに参加してもらうための工夫として、新しくコミュニティを形成するなど工夫をする（昔ながらのコミュニティではしきたりなどあり敬遠される場合もあるため）。同じ地区に2つのコミュニティがあっても良いのではないかな。
- ・ 区役所に自分が住んでいる地区のどこにどのようなコミュニティがあるかという情報を提供するコミュニティの紹介所を設置してはどうか。そして引越しなどの手続きで区役所を訪れた時に紹介してほしい。
- ・ コミュニティに対する区のアプローチがない。
- ・ 防災訓練の実施状況や防災地図が作成されていることが知られていないので、知る機会、情報に触れる機会がほしい。

（「区の広報活動」について）

- ・ 区政の恩恵を享受しているかわからないのでありがたみがわからない。そのため興味を持たない。区も情報を発信してはいるだろうが、広報活動が足りないのではないかな。
- ・ 情報を発信するだけでなく、区として区民が欲しい情報を募集したらどうか。
- ・ 限られた税金の中で広報はどこまでできるのか。コスト面も考えなければならない。

【その他】

資料の表記で「まち」と漢字の「街」とが混在して使用されているので「まち」に統一することになった。

ステップ3：今日の話し合いの内容確認

本日の話し合いの内容確認がなされた。

今回議論した結果、キーワードとして「再開発・観光開発」、「都市基盤・ハード」、「コミュニティ」を中心に検討することが確認された。さらに議論を深め、11 月下旬予定の中間発表に向けて、これまでの議論をある程度まとめていく必要があることと、発表者選出を行う必要があることを確認した。

ステップ 4：その他

【次回について】

次回は、今回議論した荒川区の姿、こうなって欲しいまちの姿に関して、さらに深めた検討を行う。
日程は 11 月 1 日の 19:30 より。